

平成26年度 学校評価報告書

学校名 (豊岡市立竹野小学校) 校長名 (榎本 和彦 印)

1 学校教育目標

自ら考え、学び、行動する子に育てる

2 学校教育推進の視点

学校教育目標の達成に向けて、教科学習においては児童が主体となって学び合う授業の指導方法・学習形態をさらに追求し、学習意欲の向上とより確かな学力の定着を図る。生活面においては、自他の存在を意識し、自分の行動を自らの考えで方向付けることにより、自己存在感や自己有用感、そして自尊感情を高める。子どもたちが様々な活動や取組を通して「自信」を育み、自らの力で、自らの幸せを創り上げることのできる人に育てる教育を推進する。

3 総合的な自己評価

「学校運営」「研修」「豊かな心の育成」「教育課程」「課題教育」「学校環境」の全ての評価分野で概ねねらいを達成している結果（平均 3.09 点/4 点満点）であり、昨年（平均 2.94 点）より数値が上がった。学校教育目標を全職員が共通理解して課題を明確にして教育実践を行ったことが要因であると分析したが、さらに指標を明確にして、教師の意識改革を図る必要があることを共通理解した。

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

学校自己評価は、経年比較ができる項目設定を行い実施した。児童や保護者アンケートを参考に評価した結果は、小委員会を設定し全体化を図った。児童アンケートは年間に2回行い、子どもの内面の理解をしながら指導にあたっている。

6 総合的な外部評価

学校関係者評価の委員会では、児童の様子を見てもらった上で、学校評価結果の適正や改善方策の妥当性を評価していただいた。また、学校評価の結果を元に改善方策についても適切であり、学校教育目標の達成をめざし職員が組織的に仕事に取り組んでいることと評価していただいた。さらに、家庭教育の充実を図り、学校、家庭、地域が一体となった教育を推し進める必要がある。そして、子どもに、気づかせ納得させて行動する力を伸ばす必要がある。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策	自己評価の妥当性
教育課程	・ 自ら学び自ら考える力の育成	主体的に学ぼうとする意欲・関心を持つ児童になったか	B2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが「学びたい」と思える授業を教師が子どもたちと共に作ることを意識した授業改革に取り組む。 ・ 個に応じたきめの細やかな学習指導ができるよう、教師の役割分担を明確にしたり、個別ワークシート新たな課題の設定をしたりする。 ・ オープンスクール等で道徳の授業を公開し、地域・保護者の協力が得られるようにする。特に、保護者が願う道徳的価値項目（粘り強さ、思いやり）を考慮した指導を行う。 ・ 自主学習の日を設定するなど、「家庭学習の手引き」のより効果的な活用を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教育課程」……自己総合評価”B”は妥当 ・ 研修テーマを「ペア・グループを生かした深まり合う授業づくり」と焦点化・具体化したものによって、子どもたちの主体的に学ぶ意欲が高まり、授業改善を進めることができた。 ・ 図書ボランティアの強い協力を得て読書意欲が高まっている。チャレンジフィフティの達成者も86%（昨年70%）まで上がった。
	・ 基礎・基本の定着と個に応じた学習指導	複数での個に応じた支援体制は効果的であったか	A3.3		
	・ 道徳教育	教育活動全体で道徳心を育てよう取り組むことができたか	B2.8		
	・ 特別活動	児童が自主的・主体的に動く学級会活動になったか	B2.9		
	・ 総合的な学習の時間	教科学習で学んだことを総合に生かすことができたか	B3.0		
	・ 読書活動	進んで読書をしようとする児童に育てたか	A3.2		
	・ 外国語活動（小学校のみ）	外国語の音声へ慣れ親しみ、関心や意欲を高めることができたか	B2.8		
学校運営	・ 開かれた学校づくり	学校は保護者等に積極的に情報を公開したか	A3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な子どもを育成するために、目的を持たせ、「なぜするのか」という意識させる取組や評価の指標を明確にする。 ・ 心の教育をさらに推進する。正しい言葉遣いができ、自分がしたことを正直に話し、素直に「ごめんなさい」が言える子に育てる。 ・ 指標や数値化した点検項目をもうけて、校内研修が積み上がるようにする。研究授業を充実するために事前に研究推進委員会を持つ。 ・ 全校で統一したテストを行い、児童の学習到達度を客観的に評価し、学力の把握と定着・向上に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校運営」……自己総合評価”B”は妥当 ・ 校長を中心に適切に教育を推し進めている。自己評価についても、全体的に数値は高くなっており、自信を持って学校運営を進めてほしいと助言を受ける。 ・ 子どもと向き合う時間を増やすためには、勤務時間の適正化を進める必要がある。職員一人一人が意識して取り組むことが重要である。
	・ 生徒指導	よりよい人間関係づくりが図れるような手だてができたか	B3.1		
	・ 危機管理体制の整備	いざという時に適切な対処・対応ができるか（危機管理意識）	B3.0		
	・ 保育園と幼稚園との連携、中学校との連携	校種間のなめらかな接続を重視した取組ができたか	B3.0		
	・ 職員研修の推進	学習内容にむらし、思考力・判断力・表現力を育成することができたか。（授業づくり）	A3.2		
	・ いじめの問題に関する対応	子どもの内面理解に努め、よりよい人間関係づくりを図ることができたか	B3.1		
課題教育	・ 人権教育	人権に対する意識が高められたか	B3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館と連携する等して、ふるさと竹野の良さを感じさせる活動を系統的に進める。 ・ なかよしランチタイム・遊びは継続して行い、異学年の活動により、よりよい人間関係とリーダー性を育てる。 ・ 特別支援学級数が増えるにあたり、職員の発達障害に対する研修と指導体制の充実を図る。 ・ 給食を通してバランスの良い食事やマナーを意識させると共に、自分の健康に関心を持たせるなど食育の一層の推進を図る。 ・ 安全指導の推進を図るために、安全ボランティアの数を拡大する。 ・ 新体力テストの分析結果を生かし、敏捷性や脚力・持久力を向上させる具体的な取組を行う。豊岡市版小学校体育準備運動を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「課題教育」……自己総合評価”B”は妥当 ・ 本年度は、PTAと連携し、「情報化の影」を学ぶ教育講演会を児童・保護者・教職員を対象に実施した。さらに、関係機関と連携して、人権に対する教育を幅広く学ぶ機会を設定するように助言を受ける。 ・ 課題教育においては、各学年の各領域で何を学ぶかという取組の柱を明確にした年間指導計画を作成する必要がある。そのためには、地域にある多方面の教育資源を積極的に活用したい。
	・ 特別支援教育	研修会・情報交換を通して、特別支援教育についての共通認識は高まったか	A3.3		
	・ 安全教育・防災教育	緊急時適切に対応できる態度や能力を育てたか	A3.2		
	・ 環境教育	環境や命を大切にすることを意識が高められたか	B3.1		
	・ 食育	食を意識した指導、実践を行ったか	B3.1		
	・ 体験活動	体験的・問題解決的な学習が仕組めたか	B3.1		
	・ 健康教育・体力づくり	自分の健康を大切にすることを児童に育てたか	A3.2		
	・ ふるさと学習	竹野のよさを発見する学習を計画または実践することができたか	B3.1		
	・ 運動遊び（小学校のみ）	縦割り班活動は効果的であったか	A3.2		

※上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色

※評価項目は各校の実態に応じて設定するが、ある活動・重点項目を追加してもよい。

外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。

